

2026 SUPER GT Rond 1, OKAYAMA GT 300 KM RACE

「シリーズ王者を目標に、新体制で順調なキックオフ」



●4月11日（公式練習/予選）

昨年以上に天候に恵まれた岡山国際サーキットでのスーパーGT開幕戦『OKAYAMA GT300KM RACE』は、公式練習が始まる時点で気温18℃、路面温度は24℃というコンディションとなり、肌寒かった合同テストとはまったく異なったコンディションでの戦いとなりました。

今シーズンは片山義章選手の新たなチームメイトとしてニクラス・クルッテン選手を迎え、岡山国際サーキット、富士スピードウェイでの合計4日間にわたる公式テストで

フェラーリ 296GT3 を煮詰めてきた VELOREX は、ホームグラウンドともいえる岡山国際サーキットでの開幕戦に向けてエンジニアリング体制も強化し、ドライ路面となった今回の公式練習、予選に向けて気合いが入ります。

午前中の公式練習ではふたりのドライバーは異口同音にやや強いアンダーステアを訴えましたが、タイム的にも 1 分 27 秒 252 と、昨年のこのサーキットでの公式練習でマークした 1 分 25 秒 259 には届かず、路面温度の変化や午後の予選に向けて更にセットアップを煮詰め続けます。

午前中の公式練習は最終的にトータル 45 周をこなしてクラス 16 番手で終えることとなりました。

本年度からエントラント代表も兼任する片山義章は、「テスト時とはコンディションは大きく違いますが、マシンのバランスには大きな問題は無いと思います。セッション中盤からは路面ができてきたこともあって、アンダーステア傾向が強まった可能性があります。午後の予選に向けて細かなセットアップ変更で対処したいと思います」と語りました。

午後 2 時、予選開始時は気温 25°C、路面温度 34°C、湿度 28% というコンディションとなりました。予選は A、B ふたつのグループに分かれた予選 Q1 でそれぞれ上位 9 台が予選 Q2 に進出。18 台で争われる予選 Q2 でのタイムでグリッドが決まるという昨年同様のシステムです。

VELOREX は A グループに振り分けられ、予選 Q1 アタッカーはニコラス・クルッテン選手が務めます。スタッフ全員が見守る中、ニコラス・クルッテン選手はゆっくりとコースインすると、慎重にタイヤを温め、4 周目のアタックで 1 分 26 秒 464 をマークし、さらなるタイムアップを目指して連続アタックに突入。セクター 1 では自己ベストタイムを更新しましたが、タイムアップはなりませんでした。結果は予選 9 番手で Q1 通過、見事 Q2 進出を決めてみせました。

GT500 クラスの予選でアクシデントのため赤旗中断があったことで、GT300 クラスの予選 Q2 開始は午後 3 時 14 分となりました。コースオープン直後の混雑を避け、エースドライバーの片山義章選手は落ち着いてタイミングを図ります。

セッション残り 8 分でコースインすると、慎重にタイヤをウォームアップし、4 周目に 1 分 25 秒 255 で 3 番手タイムを叩き出し、最終的に全車がチェッカーを受けた段階で 4 番手となりました。その結果、明日の決勝レースはクラス 2 列目グリッドからのスタートとなりました。





■片山義章選手のコメント

「シーズンオフのテストからずっとマシンは好調で、素晴らしいマシンを作りあげてくれたチームに本当に感謝しています。公式練習では、自分がニュータイヤでアタックを試みたのですが、GT500クラスのマシンが目前でウォームアップをしていて2周ずっと抑えられてしまったのでアタックはできませんでした。時間的な問題もあって、ニクラス・クルッテン選手に交代し、彼がユーズドタイヤで好タイムをマークしていたので、今度は自分がロングランでバランスをみてアジャストし、ニクラス・クルッテン選手もロングランで満足いく走りができていました。昨年自分はここで予選Q1のトップタイムをマークしているし、自信もあったので、今回はQ2のアタッカーをやりたいと申し出て、小倉啓悟監督が僕を信じて任せてくれました。Q1ではニクラス・クルッテン選手がアンダーステアを訴えて苦戦していたので、彼のフィードバックを参考にチームが素晴らしいアジャストをしてくれて、マシンの限界を引き出せたと思います。トップタイムはちょっと見えなかったのですが、2番手、3番手とは僅差で

したので、明日は勝負できるポジションです。応援して下さる岡山のファンの皆さんやスポンサーの皆さんに恩返しができるように明日の決勝も頑張ります」



■ニコラス・クルッテン選手のコメント

「朝の公式練習ではバランスは悪くなかったのですが、テストの時の路面コンディションと大きく異なっていたので、タイヤに合わせたセットアップ変更が必要でした。予選は自分としてはまずまずの走りが出来たと思います。ただし路面コンディションの変化のせいか、フロントのグリップ不足でかなりアンダーが強く、予選通過できるかギリギリでしたが、Q2に進出できて良かったです。エンジニアにその状態を説明し、片山義章選手の走行までにセットアップをアジャストしてもらいました。チームが素晴らしい仕事をしてくれ、片山義章選手も素晴らしい走りを見せてくれたので、明日のグリッドは2列目からのスタートですし、十分に勝てるチャンスがあると思っています」



■小倉啓悟チーム監督のコメント

「今日は自分たちとしては、順調な一日でしたね。大きなメカニカルトラブルもなく、周囲が予想より速いペースであったことを除けば、気温の上昇に対してタイヤが厳しいかなという不安はありましたが、まずまずの予選結果だったと思います。Q1では予想以上にアンダーステアが強く出たようで、Q2までにアジャストし、それが適切なセッティング変更だったとドライバーのコメントからも、データからも確認できました。片山義章選手をQ2担当としたのは、彼の希望でもありましたが、合同テストでも好タイムを出していましたし、彼が昨年同様の走りをしてくれればチーム全体の士気も高まると思ってQ2を任せました。結果も良かったと思います。ふたりとも岡山ではテストから好タイムをマークしてくれていますし、明日の決勝は天候も安定していると思いますので、まずはしっかりとトップについていき、チャンスをうかがって一気に攻めのレースで優勝を狙いたいと思います」

■本リリースに関するお問い合わせ：チームルマン広報部：info@teamlmans@co.jp